

「わが国のいわゆる『自閉症施設』 はなぜ必要とされてきているのか： これまで、いま、そしてこれから。」

植木是

1.はじめに:

- 本稿では、日本において、「いわゆる『自閉症施設』はなぜ必要とされてきているのか」を明らかにしていくため、これまで／いま／に至るまでを概観・整理し、これからについて、みていく。

2.いま——いわゆる自閉症施設とは:

- 現在、日本において、自閉症施設は「児童施設」と「成人施設」に大別されてきている。日本初の「児童施設」は1964年に、「成人施設」は1981年に、いずれも先駆的実践を重ねてきた三重県で生まれた。法定化されてきたのは「児童施設」である(1980-2005)。一方、「成人施設」は知的障害者福祉法による処遇施策を援用して支援を受けてきた(1981-)。現在、自閉症施設の法的規定はない。しかし、いわゆる「自閉症施設」は、全国で成人施設75、児童施設7、と今なお引き続き存在している実際にある。

3.これまで——自閉症施設成立の流れ:

- いわゆる「自閉症施設」は先進地・三重県などで児童精神科を中心とした先駆的実践によって生み出されてきた経緯がある。その流れを自閉症施設設立の流れとして、まとめたものを以下、表1に示す。その実践は、大きくは①「自閉症児施設」(児童施設)、②「自閉症者施設」(成人施設)、および③「自閉症総合援助センター」(総合拠点)、の3つの実践の流れと地域における拠点としての施設づくりを生み出し、各々がお互いに独自性を持ちつつ、影響を受けあいながら発展／展開してきている。

[表1. 自閉症施設成立の流れ]

1. 自閉症児施設の成立の流れ
① 1962-64: 三重県立高茶屋病院にて先駆的取り組み。わが国初の自閉症児施設あすなろ学園(三重県)の設立。
② 1968-70: 自閉症児の教育権の問題と年長児問題の保障への取り組み。
③ 1980: 児童福祉法による自閉症児施設の指定。
2. 自閉症者施設の成立の流れ
① 1981: 先駆的取り組みとして、わが国初の自閉症者施設あさけ学園(三重県)が設立される。
② 1987: 先駆的取り組みが広がってきた自閉症者施設のネットワーク組織の運営・協議体として、全国自閉症者施設協議会の設立へ。
③ 1990年代~: 全国自閉症者施設協議会加盟施設実態調査報告(1992, 1995)
3. 自閉症総合援助センター構想に向けての流れ
① 2000年代~: 「自閉症者施設サービス基準」および「自閉症者施設サービス評価基準」(2006[ver.1], 2008[ver.2])の策定
② 2003年: 自閉症・発達障害者支援センターのモデル事業化/同センター法制化に向けて2005年発達障害者支援法を実現させる。
③ 2010年代~: 地域生活支援と総合援助センター化へ向けた取り組み。

4.これから——小澤勲とその周辺の 考え方から:

- 4.1: 児童精神科の取り組みから出発した自閉症施設であるが、精神医療による支配には限界があったのではないかと、こういったことを1970年代には指摘し、日本の精神医療のあり方について批判的に考え実践し、(伝統的な流れとは異なる)自閉症の実現場の活動にも大きな影響を続けてきた小澤勲(1985)による自閉症論/ケア思想、自閉症施設のみかたについて、みてみる。高岡健(2010: 118)は、関連して次のように述べている。「[...]精神科医に自閉症児を任せても、良くなるはず金ばかりがかかった。1960年代後半から自閉症施設がではじめたが、それははじめから障害福祉課でとりあついていた。」
- 4.2: また、村瀬学(2010: 174)は、次のように述べている。「[...]私は小澤勲の『医学用語』への『こだわりを捨てるどころから出発した遺志を、これからもっと具体的に実践してゆくべき時が来ているのではないか』と思っている。」
- 4.3: 生活をともにする現場に必要とされるものとは何か。児童精神科の取り組みから始まった「自閉症児に対する教育的治療法」(十亀, 1979)という考え方からも学びながら、実践の流れを丁寧に見直ししていく必要がある。そして今後更なる展開として、小澤らの反精神医学の思想に共鳴しながら草の根で削り上げてきている取り組みにも注目したい。柳らの「みんなてくらす」(1970頃)「パンツを洗う専門家」(1995)「お尻を拭く専門性」(2000頃)を実践する「お互い様」(2006)の考え方、等に流れるものとの関連性/実践可能性を、今後も当事者とともに生活と支援をしていく実践の現場から、深めてみ続け、考えていく必要があると思われる。この実践には法的規定が保障されていないことから、経営主体が独自に運営努力をしていることを忘れてはならない。それらの活動を支えていくためにも、地域住民とともにくらししていく視点を深めていくことが大切であると思われる。

参考文献:

- あすなろ学園, 2016, 『あすなろの30年』三重県立小児心療センターあすなろ学園、
- 小澤勲, 2007, 『自閉症とは何か』洋泉社
- 高岡健, 2010, 「『自閉症論批判』解題」小澤勲『自閉症論再考』批評社
- 村瀬学, 2010, 「『わが国における自閉症研究史』解題」小澤勲『自閉症論再考』批評社
- 柳誠四郎, 1995, 「最近思うこと」三重県教育研究集会障害児部会, 三重県・津市

